

「ミツバチのしょうたいじょう」



KOBELCO 森の童話大賞について

森はたくさんのいきものの命を育み、空気をきれいにし、水をたくわえ、私たちの暮らしに安全と豊かな恵みを与えてくれます。でも、一度森が元気を失ってしまうと、元通りにするには長い年月と、大変な努力が必要になります。

このような「森」を理解し、大切にすることを、次の世代を担う子どもたちに育んでもらうため、KOBELCOグループは「森」をテーマにしたおはなしを募集し、絵本を作っています。

この絵本を読んで、一人でも多くの子どもたちが、森をはじめとする自然について考え、かけがえのないものであると気づき、そして、いつか、森を、自然を、元気にすることを何か一つでも実行していただければと思っています。

「ミツバチのしょうたいじょう」の舞台となる森林について

おはなしの舞台は、草原の里山です。森の外ギリギリのところを舞台として設定しました。

「ミツバチのしょうたいじょう」は兵庫県神戸市北区、六甲山を背景にした草原の里山を舞台として設定しました。



キーワード
「捕食」



テントウムシには肉食性、草食性、菌食性の種類があり、アブラムシは、このナナホシテントウの大好物です。幼虫で20匹ぐらい、成虫になると100匹ぐらい、1日に食べます。人間にとっての害虫と益虫の関係ですね。

KOBELCO森の童話大賞HPの「おはなしを書く前に」で、森についての詳しい情報を発信しています。ぜひご覧ください。
HP www.kobelco-mori-ohanashi.jp



クロアゲハ

ベニシジミ

「ミツバチのしょうたいじょう」の世界



バラ (園芸種)

ナナホシテントウ



ノコンギク

ニワゼキショウ



カタバミ



ホウセンカ

ショウリョウバッタ



ノカンゾウ



アゲハチョウ

ミツバチ



キキョウ

ヘクソカズラ

マツカゼソウ



クロアゲハ

モンキチョウ

モンシロチョウ



ツユクサ